

**新座市立西堀小学校**

**いじめの防止等のための基本的な方針**

**令和3年4月**

**新座市立西堀小学校**

# 目 次

はじめに	1
1 いじめの未然防止のための取組	1
2 いじめの早期発見への取組	2
3 いじめの早期解決への取組	3
4 いじめの解消	3
5 いじめの問題に向けての校内組織	4
6 いじめによる「重大事態」の対応について	5
7 インターネットを通じて行われるいじめ対策	5

## はじめに

新座市立西堀小校では、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）第13条の規定に基づき、児童が安心して学校生活を送ることができる学校づくりに努めるとともに、いじめの防止及びいじめにあっている児童への対応等について、教職員が組織一丸となって効果的に推進できるようにするため、「いじめの防止等のための基本的な方針」を策定する。

### 1 いじめの未然防止のための取組

いじめはどの児童にも起こりうるという可能性を踏まえ、全ての児童を対象として、いじめの未然防止のために、全校をあげて取り組む。

未然防止の基本として教職員は、相互に心が通じ合うようなコミュニケーション能力を児童に育むとともに、主体的で規律正しい態度で授業や行事に参加、活躍できる授業づくり、集団づくりに努める。

また、児童の悩みを親身になって受け止めることができるよう信頼関係の醸成に努め、児童の出すあらゆるサインを見逃さないようにする。

さらに、日頃より、「いじめが起きた場合は、いじめられている児童を守り抜くことが最優先である」ということを念頭におきながら指導、支援にあたる。

加えて、万が一にも教職員の言動により、児童を傷つけたり、いじめを助長したりすることがないように指導の在り方に細心の注意を払う。

#### (1) 教師の姿勢

教師は「平常時の指導の大切さ」を忘れることなく、次の姿勢で指導に臨む。

- ・いじめを絶対に許さない毅然とした姿勢
- ・いじめられている児童生徒を守り抜く姿勢
- ・いじめを見逃さず、放置しない姿勢

#### (2) 学級づくり

##### ① 安心して生活できる居場所づくり

- ・児童の気持ちを共感的に受け止める。
- ・児童に、学級で責任を果たすことのできる役割を与える。
- ・学級のルールを基盤に、公正さを欠かない姿勢をもつ。
- ・毎月実施する児童用「学校の生活アンケート」の結果を生かす。
- ・日常的に偏見や差別のない温かい風土を醸成する。

##### ② 児童同士、児童と教職員との信頼関係による絆づくり

- ・児童に、自分のよさに気付かせるとともに相手のよさにも気付かせ、互いの違いを認めることができるようにする。
- ・児童に、自己有用感をもたせられるような場面づくりをする。

- ・公正なリーダーとフォロワーを組織する。
- ・言葉づかいの大切さを指導し、心を温かくする言葉を使わせる。

### (3) 学習指導

- ・各教科において、一人一人の考えや意見が尊重され、自他の違いを認め合うような授業を展開し、学ぶ喜びを味わわせるようにする。
- ・多様性を認め合う学級風土を醸成することで、間違いや誤答を排除したり、嘲笑したりすることを防ぎ、楽しく学ぶことができる授業規律を確立する。
- ・学業不振やその心配のある児童生徒には補習などの学習支援を行い、学習意欲を喚起、持続できるようにする。
- ・特別支援教育やインクルーシブ教育の視点も積極的に加味して授業づくりを行う。
- ・道徳の時間を要として、生命を大切にすることや他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等の道徳性を発達段階に応じて高めていく。

### (4) 保護者や地域、関係機関とのネットワークづくり

- ・第六中学校区のいじめ・非行防止サポートチームに参加し、学校、保護者、地域、関係諸機関との円滑な連携を図る。
- ・学級、学年懇談会等を開催し、いじめや問題行動等について情報交換をしたり対策を話し合ったりする。
- ・保護者に、いじめから子どもを守る役割があることを認識してもらうため、意識啓発を図る。特に、携帯電話等のトラブルに係る情報モラルについては、学校と保護者の相互協力が不可欠であることに理解を求める。

### (5) 新型コロナウイルス感染症等に関するいじめの防止

- ・児童生徒が過度な不安をもつことがないように、感染症に係る知識及び行動を身に付ける。
- ・感染症にかかった方やその家族、医療従事者の方々などに対する偏見をもたず、常に自分事として考えられるよう、回復を見守る態度を養う指導を行う。
- ・ウイルス感染に係る誹謗中傷の場面を見かけたら、周囲の大人に相談できる環境をつくる。
- ・管理職のリーダーシップのもと教職員が組織的に対応し、心身共に健康で、いじめのない学校づくりに努める。

## 2 いじめの早期発見への取組

多様な形で児童生徒の相談に対応できるよう体制を整えるとともに、全教職員による情報共有に努め、情報分析に基づく速やかで的確な対応を実践する。

(1) 「新座市いじめの根絶に係る取組」の実施要項に則り、全教職員が以下の取組を実践する。

### ① 教職員用チェックリストの活用（毎月実施）

② 児童生徒学校の生活アンケートの実施（毎月実施）

③ 保護者用チェックリストの活用（每学期実施）

※チェックリストは1年間保存

(2) 県スクールカウンセラー、さわやか相談員、子どもと親の相談員との連携

(3) 副担任や担任外、養護教諭、特別支援教育支援員、交通指導員等との情報交換

(4) 新座市教育相談室との連携

(5) 情報共有の大切さを学ぶ「事例研究」の実施

### 3 いじめの早期解決への取組

いじめを発見した場合や通報を受けた場合は、全教職員の共通理解に基づく共通行動が必要不可欠である。また、保護者の協力や関係専門機関との連携も欠くことができないことから、いじめを認知した場合は、次の取組を実践する。

(1) いじめ問題担当者を中心にいじめ問題対策委員会を開催し、速やかに当該児童生徒の支援、指導を行う。

(2) 教職員の他にスクールソーシャルワーカー等を活用しながら、当該児童生徒の保護者との連携を図り、学校の取組についての情報を速やかに伝え、適切な支援、相談を行う。

(3) 他校の児童生徒が関わると思われる場合は、当該校への通報、その他適切な措置をとる。

(4) いじめに対する措置の結果を市教育委員会へ速やかに報告する。

(5) 事後においては、経過観察を行い、問題解決の確認をして再発防止に努める。

(6) 学校全体で生徒の豊かな情操と道徳心を培い、心の通う対人関係を養うため、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動の充実を図る。

(7) 事後においては経過観察を行い、問題解決の確認を行うとともに、次年度以降に申し送ることで再発防止に努める。

### 4 いじめの解消

いじめが解消している状態とは、少なくとも次の二つの要件「いじめに係る行為が止んでいること」「被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと」が満たされる必要がある。

「いじめに係る行為が止んでいること」とは、被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む）が止んでいる状態が、少なくとも3か月間（目安）継続していることである。いじめの被害の重大性等からさらに長期の期間が必要であると判断される場合は、この目安にかかわらず、学校の設置者又は学校いじめ対策組織の判断により、より長期の期間を設定する。

## 5 いじめの問題に向けての校内組織

いじめ等の対策を実効的に行うための組織として、「西堀小学校いじめ問題対策委員会」を設置する。

### (1) 構成員

校長の指揮の下、教頭、いじめ問題担当者（教育相談主任）を中心に、教務主任や生徒指導主任、各学年生徒指導・教育相談担当、養護教諭を充て、個々の事案に応じて学年主任や学級担任、及び必要に応じて副担任や特別支援教育支援員、子どもと親の相談員、その他の者を加えることができるものとする。また、外部機関との連携が必要な場合は、新座市教育相談員や新座市学校カウンセラー、スクールソーシャルワーカー（SSW）の他、第六中学校区学校サポートチーム、ふれあい連絡協議会の参加を図る。

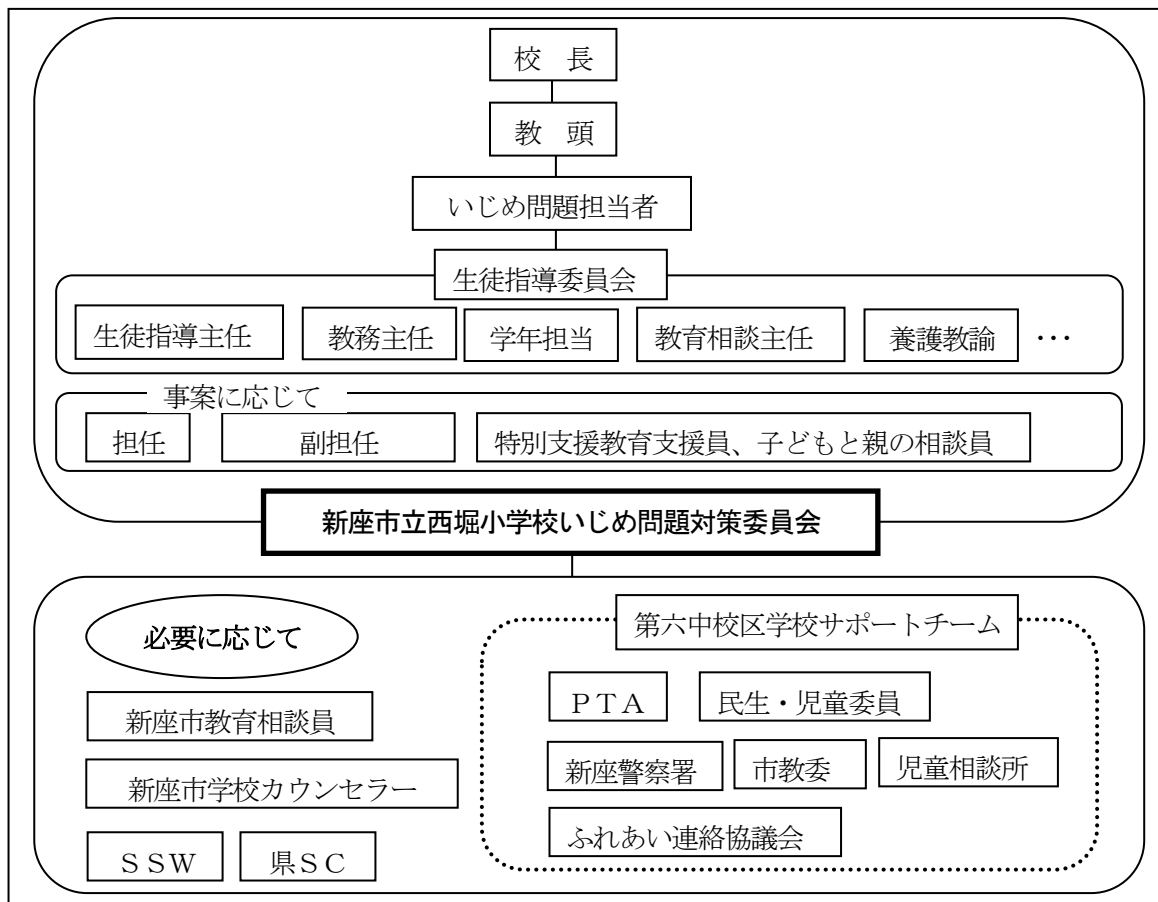
### (2) 活動内容

- ① 基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成や実行、検証、修正
- ② いじめの相談や通報の窓口
- ③ いじめの疑いについての情報や児童生徒の問題行動等に係る情報の収集、記録、共有
- ④ いじめ事案に対する組織的な対応

### (3) 開催時機

- ① 平常時は定期的で開催する。
- ② いじめ事案が発生した場合は、緊急で開催する。

### (4) 組織図



## 6 いじめによる「重大事態」の対応について

いじめ問題への対応については、日頃から市教育委員会との連携を密にする。特に、「重大事態」に至った場合は、学校だけで判断することなく、直ちに市教育委員会に報告し、市いじめ問題対策委員会との連携を図る。

(1) 重大事態の意味（いじめ防止対策推進法第28条から）いじめにより、

- ・児童が自殺を企図した場合
- ・身体に重大な傷害を負った場合
- ・金品等に重大な被害を被った場合
- ・精神性の疾患を発症した場合
- ・相当の期間（30日を目安とする）欠席を余儀なくされている疑いがある場合
- ・いじめられて重大事態に至ったという申立てが児童や保護者等からあった場合

(2) 重大事態の対応

「重大事態」を全教職員が理解し、以下のとおり、対応にあたる。

① 調査を行う組織

調査にあたっては、公平性、中立性確保の観点から、いじめ問題対策委員会を母体として当該いじめ事案の関係者と直接の人間関係又は特別の利害関係を有しない者の参加を図る。

② 調査の実施

事実関係を明確にするために、重大事態に至る要因となったいじめ行為が、いつ（いつ頃から）、誰から行われ、どのような態様であったか、いじめを生んだ背景や事情や児童の人間関係にどのような問題があったか、教職員がどのように対応したか、などの事実関係を可能な限り網羅的に調査する。その際、因果関係の特定を急ぐことなく、客観的な事実関係を速やかに調査する。

③ 調査結果の提供及び報告

調査で得た情報は、児童及びその保護者等に適切に提供する。また、市教育委員会を通して市長に報告する。

## 7 インターネットを通じて行われるいじめ対策

児童のインターネット上でのいじめを防止するために、対策として以下の取組をする。

- (1) 教職員は、ネットトラブル等を題材として、学級活動における指導を行う。
- (2) 児童のインターネット利用に関する理解を深めるとともに、ネットトラブル等の危険性について意識啓発を図るため、警察職員、電気通信事業者等による講演会を実施する。
- (3) 保護者のネットトラブル等に関する意識啓発を積極的に行うため、講演会を実施する。
- (4) フィルタリングの必要性について、児童及び保護者に対し、機会を捉えて意識啓発を積極的に図る。
- (5) P T Aや保護者会が主体となってネットトラブル等の防止のための取組を行う場合は、学校も積極的に協力し、その取組を支援する。